

議題	テーマ提言について
項目	まとめ

前回までの基準諮問会議における提案

1. 前回までの基準諮問会議において提案されたもののうち、会計基準レベルのテーマに関する検討状況は以下のとおりである。

提案時期	内容	検討状況
第 26 回 (H28/3/4)	「経営者が会計方針を適用する過程で行った判断」及び「見積りの不確実性の発生要因」に関する注記情報の充実	本日の基準諮問会議は、事務局の分析についてご審議をお願いします。(資料(1)-2を参照)。 次回の基準諮問会議において、ASBJに新規テーマの提言を行うか否かについて決定したい。

2. 前回までの基準諮問会議において提案されたもののうち、実務対応レベルのテーマに関する検討状況は以下のとおりである。

提案時期	内容	検討状況
第 24 回 (H27/7/13)	無対価株式交換の会計処理	実務対応専門委員会に評価依頼中。
第 24 回 (H27/7/13)	親会社による子会社の吸収合併	同上。
第 25 回 (H27/11/12)	会計制度委員会報告第 14 号「金融商品会計に関する実務指針」における当座貸越契約及び貸出コミットメントに関する規定の改正	同上。
第 26 回 (H28/3/4)	子会社、関連会社株式の減損とのれんの減損の関係	実務対応専門委員会の評価は以下のとおりである(資料(1)-3を参照)。 ● 本テーマは、日本公認会計士協会から公表されている資本連結実務指針に定められる連結財務諸表におけるのれんの追加的な償却処理の改正の提案である。同会計処理

		<p>については、連結財務諸表におけるのれんの減損の考え方と整合しないケースがあり得るものと考えられ、広範な影響がある会計処理であることを踏まえ、ASBJにおいて検討することが適当であると考えられる。</p> <p>この実務対応専門委員会の評価を踏まえ、ASBJの新規テーマとして提言することとしてはどうか。</p>
--	--	--

第27回基準諮問会議（今回）における提案

3. 今回、以下の項目についてテーマ提案が行われたため、事務局で検討の結果、以下の対応を提案する。

会計基準レベル/実務対応レベル	項目	対応
実務対応レベル	マイナス金利に係る種々の会計上の論点への対応	マイナス金利の状況は継続しているため、ASBJにおいて会計上の論点について取扱いを明らかにすることは有用であると考えられるが、今後のマイナス金利の水準を予測することは困難であり、国際的にも会計上の取扱いが定まっていない分野であることも踏まえ、基準開発の要否及び時期についてはASBJの判断に委ね、適時に対応を図ることを依頼することとしてはどうか。

※上記記載の「会計基準レベル/実務対応レベル」の区分は、提案者の区分によるものである。

(参考)

過去に審議を行ったが提言に至らなかったテーマ

4. 以下については、前回までの基準諮問会議で提案され、テーマ提言に至らなかったテーマである。

(会計基準レベル)

- 比較情報 (第 16 回基準諮問会議提案)
- 金融商品の消滅の認識 (第 16 回基準諮問会議提案)
- 完全親会社が完全子会社に無対価会社分割で事業を移転する場合の会計処理 (第 18 回基準諮問会議提案)
- 金融商品会計における上場関係会社株式の減損の取り扱いについて (第 21 回基準諮問会議提案)
- 継続企業の前提が成立していない状況で適用する会計基準の開発について (第 17 回基準諮問会議提案)

(実務対応レベル)

- 種類株式の会計処理 (第 16 回基準諮問会議提案)
- 現物分配の会計処理 (第 16 回基準諮問会議提案)
- 契約に含まれるリース取引 (第 16 回基準諮問会議提案)
- ポイント引当金 (第 17 回基準諮問会議提案)
- リストラクチャリングに関連する引当金、早期割増退職金の会計処理 (第 16 回、第 17 回基準諮問会議提案)
- 指定国際会計基準を任意適用している会社において、親会社の子会社を吸収合併する際に子会社から受け入れる資産及び負債の適正な帳簿価額の考え方 (第 20 回基準諮問会議提案)
- 総合型厚生年金基金の特例解散における会計処理 (第 21 回基準諮問会議提案)
- 厚生年金基金の代行部分に関する前納の会計処理 (第 21 回基準諮問会議提案)

以 上